

お茶大での交換留学

政治大学
リヒンシン

葉が徐々に黄色くなる十月上旬から寒さが身にこたえる一月末まで、私はお茶の水女子大学で非常に充実した第二学期を過ごしました。

—学業—

この学期、私は8つの授業を履修しました。留学生向けの授業も学部の授業も含まれています。

例えば、王一瓊先生が開講した『日本事情演習Ⅱ』では、食、服、住宅、交通のテーマで、日本の文化を俯瞰的に学びました。特に、今学期は2回、お茶大附属小学校の小学生たちと交流しました。小学生たちに自分の国の文化を紹介し、彼らの考えを知り、また日本の小学生生活と台湾との違いにも理解を深めることができました。これはとても面白く、留学中に得た貴重な経験でした。

私のお気に入りの授業は、日本語学科の谷口幸代先生が開講した『日本近代文学論特殊講義Ⅱ』です。この授業では、主に明治時代の文学の出版物を例に取り、装丁デザインと作品の関係を分析しました。表紙の挿絵から本の中身にある小さな図案まで、授業で紹介された様々な作品を通じて、私は明治時代の文人と画者が書籍の出版に対して繊細で巧妙なアイデアを持っていたことを深く感じました。これはとても嬉しい経験でした。

正規の授業以外にも、お茶大では茶道、生け花、着物など様々な体験教室も開かれています。これらの体験教室は留学生にとって豊かで多様な文化の宴を提供してくれました。

—生活—

私はお茶大のキャンパス内にある学生寮「音羽館」に住んでいます。音羽館は2022年オープンしたばかりの新しい寮で、設備が非常に新しく整っています。各部屋にはバスルームと小さなキッチンがあり、共用施設も充実しています。クリスマス・イブには留学生たちがキッチンスタジオでパーティーを開催し、皆で料理を作り、歌って踊り、私にとって最も幸せなクリスマスでした。お茶大と音羽館のスタッフには留学生にとって非常に快適な居住環境を提供してくれたことに感謝しています。



学校周辺の生活環境も便利です。近くにはスーパーやコンビニ、ドラッグストアなどがたくさんあります。また、学校から最寄りの駅までも遠くなく、お茶大は丸ノ内線上に位置しているため、東京の主要な繁華街や観光地への交通アクセスも非常に便利です。

—旅行—

私は1学年の交換留学生として、2か月間の夏休みを過ごし、東北の祭り、九州および山陰山陽地域の旅行を計画しました。学期中、東京都内だけでなく、河口湖や岐阜の白川郷、群馬の草津温泉などの他の県市も訪れました。それぞれの都市には異なる雰囲気があります。過去に写真や文章でしか知らなかった場所が、実際に目の前に現れました。旅の途中で多くの地元の人々と出会い、彼らは親しみを持って日本を紹介してくれたり、台湾を訪れたことがあると話したり、台湾の友人がいると言ってくれたりして、私はとても温かい気持ちになりました。



—感謝—

留学生活にお世話になった方々に感謝を伝えたいと思います。

すべての先生方の教えに感謝します。特に、私の指導教師の谷口幸代先生には本当に感謝しています。先生はとても優しく、授業での私の発言を励ましてくれました。谷口先生の学生になれたことは本当に素晴らしいことです。

国際教育センターの先生方に感謝します。特に、萩原章子先生やAAの永田さん、イさんは学生たちの学業や生活の細かいことまでお手伝いくださり、毎週のHomeroom時間に交換留学生に様々な情報と心配りをしてくださいました。また、岩崎美緒さんにも国民年金の免除手続きの助けをいただき感謝しています。

最後に、この時間に出会ったすべての人々に感謝します。桜が満開で、蒸し暑さが広がり、銀杏や紅葉が街中に広がり、最終的に雪が静かに大地に舞い降りるまで、私は日本の四季を感じる事ができて本当に幸せでした。七月末に隅田川花火大会に参加し、花火が一つ一つ夜空を照らし、新しい時間の軸に星が輝いているようでした。私もこの1年の収穫を胸に新しい人生の旅路に進んでいきます。